



# 私のひとりごと

## 「奉仕作業」

美浜町建築業組合で40年以上も続いている奉仕作業。年に一度ではあるが、一人暮らしの年配の方に限り、家の修理を材料費のみ頂き手間代は奉仕するという行事である。地区の民生委員の方の調査に基づき、役場を通じて建築業組合に依頼が入る。年間になると、その数は町内で約40軒にもなる。私も長年その行事に携わって来たが、近年その行事の中でさえ時代の流れを感じざるを得ない事がある。

以前は、お伺いするお宅はそれなりに修理が必要で、一人暮らしの年配の方にとっては確にお困りであったろうと推測できた。修理後は心から喜ばれ、こちらと共に喜び、気持ちの良い汗をかかせていただいた事に感謝したものである。ところが最近の傾向として、お伺いするお宅はとても立派な家が多く、奉仕作業とは無縁と思えて



ならない。勿論、大変お困りのお宅もあるが、それは全体の3割にも満たない。材料等の段取りもあるので事前にお伺いすることになるが、例えばお留守の場合、隣に住む息子さん宅に顔を出すと、修理依頼の件は全くご存知ではなく、まるで他人事である。また、あるお宅では、近くに身内の方が住んでおられ、間を取り持って頂いた民生委員の方も身内であり、それなりの資産家でもある。また、ある所では、とても大きく立派なお家。何処を修理するのかと思いきや、裏の納屋に連れて行かれ雨樋の修理。またある所では、これ

も立派なお宅。今度は畑に連れて行かれ農作業小屋のトタン修理・・・、などである。どれも一人暮らしの年配の方には難しい作業であることに違いはないが、心に違和感を持ちながらの作業となる。つくづく、人と人との人情の気薄さを感じると共に、家族の絆さえ危うく感じられてならない。

この奉仕作業、発足当時の建築組合の趣旨とズレが生じているように思われるが、それでもお困りの方が居られる以上、これからも地道に続けていきたいと思う。



ではまた来月もお会いしましょう。  
今月も最後まで読んでいただき・・・

あーがしう  
ございました!!

